



暴走

高市政権

断念
定数削減

棚上げ
消費税減税

皇室
典範

国旗
損壊

「高市総理はめちゃくちゃするな」
「そこをどけ」とコールする人たち
＝7月10日夜、国会正門前（7月
19日付しんぶん赤旗日曜版より）



特別国会会期末を迎えた17日、自民党と維新の会の高市政権与党は、事実上「副首都」法案成立ため、道理のない8日間の延長、会期を25日までとしました。

延長国会

「副首都」法案成立狙い

衆院比例定数削減法案 今国会成立断念

「衆院比例定数削減」法案と「副首都」法案の一方的な審議強行、与党の強権的な国会運営が続き、審議が止まる事態に陥るなど、異常な事態が続いた国会。自民と維新は、定

数削減法案の今国会成立断念に追い込まれ、一方で維新が固執する「都構想」（大阪市の廃止）を狙う「副首都」法案成立のための党利党略の会期延長を強行しました。

女性差別助長・表現の自由侵害・再審制度目的に逆行など 悪法次々

高市政権には、物価高や円安で困窮する暮らしへの策はなく、首相自身の公約である消費税減税も、国会での審議を避け、消費税減税を掲げる政党を排除した「社会保障国民会

議」丸投げで、公約は棚上げ状態。

国会最終盤には、改定皇室典範、国旗損壊罪処罰法、再審制度見直しの改定刑事訴訟法などを一気に成立させました。

日本共産党

物価高騰、暮らしの危機打開へ

経済政策を転換する緊急要求

日本共産党は14日、大企業・富裕層優遇の歪みを正し、消費税減税と「暮らし第一」の政治、物価高騰、暮らしの危機打開へ政府に緊急要求。そして憲法に基づいた民主政治への転換をめざし全力を尽くします。



緊急要求本文と山添拓参議員の会見動画はこちらから

「なくそう核兵器・めざそう平和」

7月13日（月）国民平和前行進取手集会在、取手市役所前福祉交流センターで行われました。月、北海道の礼文島を出発した平和行進が11日、茨城県南地区に、13日はつくばみらい市、守谷市を通過して取手市に引き継がれました。集会には、副市長・教育長と市の職員、市民等合わせて60名が参加しました。

取手市は1985年の、非核兵器平和都市宣言以来平和啓発の取り組みを続けている等市長のメッセージを副市長が紹介。教育長は、平和教材を扱った教科書も紹介して学校教育の場での平和学習の報告。

市民からも、「長年の平和の行動が、ICAN や日本被団協のノーベル平和賞受賞に実を結んだ。これからも日本政府が核兵器廃絶に署名するよう運動していこう。」と発言がありました。集会後、取手駅西口まで約30名の人たちが行進し、道行く人々に「核兵器なくせ」「戦争ではなく、平和を」と、アピールしました。



市役所前から取手駅に向かう行進団

◀取手市役所庁舎に掲げられた懸垂幕

高市首相「中傷動画」疑惑説明できず

高市政権は自身にかかわる疑惑への説明責任を回避し、暮らしと営業を守る対策ありません。公約に掲げた消費税減税の国会での論議も避けています。

中小企業倒産は12年ぶりに1万件を突破、実質賃金も11カ月連続で減少、実体経済はますます深刻化しています。



改定皇室典範

皇室典範小池晃参議員動画（7・6予算委員会質疑）はこちらから

白紙に戻すよう求める 日本共産党

田村智子委員長は18日、党本部での記者会見で、（天皇の地位は）「国民の総意に基づく」という憲法1条との整合性を欠き「ジェンダー平等の観点からも日本社会へ悪い影響を与える」と指摘。改定について「これから白紙を求めていく」と述べました。

各紙社説 こぞって批判「象徴天皇を傷つけた」（「読売」）、「象徴天皇の土台揺るがす」（「毎日」）、「時代錯誤の『物語』賛同できぬ」（「朝日」）など、各紙はこぞって批判しました。

私たちは
戦争につながる憲法改悪に反対します
——憲法9条改悪に反対する請願署名——

にご協力下さい

署名用紙は
こちらから→



国民平和前行進取手に

食と農を考えるシンポジウムinとりでを開催

7月2日とりで未来プロジェクト主催で「食と農を考えるシンポジウム」を開催。取手市と市教育委員会の後援及びメッセージを頂き、市内や近隣から約60名の参加がありました。

担い手、技術、資源の活用で地域から食料自給拡大

第1部は「未来の子どもたちの食と農業」で涌井義郎さんが基調講演。多くの有機農家を育てた涌井さんは、気候危機・温暖化、生き物の絶滅加速、土壌の劣化、真水の危機などを指摘し、有機農業から環境再生型農業への転換を

農業生き残りは、環境に優しい有機農業で

第2部は JA 常陸秋山豊組合長。専務理事の時 TPP 問題が発生、絶対阻止を宣言し、県北地域で、「生き残れるのは有機農業しかない」と感じた。「学校給食のオーガニックに」常陸大宮鈴木市長からの協力依頼があったこと、山田正彦元農水大臣や茨城有機農業技術研究会会長の指導によ

第3部はディスカッション。「不耕起栽培について」「もみからの処分法」「農家収入減少の解決法は？」などの質問に、涌井さん、秋山さんのお答えで、シンポジウムを閉じ

訴えました。

子どもたちの未来の食の確保には、地域の担い手、技術、資源などの活用で食料自給の拡大など提案されました。



り、有機米も現在10トンくらい栽培が進んだと経過が話されました。最後に「近代農業より有機農業がよっぽど面白い。茨城も環境にやさしい農業が広がりつつある」と力説されました。

ました。

アンケートに寄せられた内容からも、好評のシンポジウムでした。

根本和彦（食と農を考えるとりで未来プロジェクト代表）

命名権は「内心の自由」を侵している!

遠藤俊夫
(取手駅前開発を考える会代表)



ネーミングライツで「常陸建設ふじしろ図書館」と命名されたふじしろ図書館

ふじしろ図書館の愛称が「〇〇建設ふじしろ図書館」になったことを知っていますか。

ネーミングライツ事業を図書館にまで適用した結果です。実施要綱では「必要に応じて、愛称ではなく…条例に定める…名称を使用するものとする」と言いますが、市報などではもっぱら愛称ばかりが宣伝されています。

図書館は、学習の自由、別の言葉で言えば「内心の自由」を保障する教育施設です。他方、愛称は「営利」を助けるものです、私たちの心の中にすかずかと「営利」が踏み込んできている気持ちになりませんか。

図書館を利用すること

が「営利」を助けているといった感じです。

図書館と同じ教育施設である公民館は、社会教育法第23条第1号で、公民館が「もっぱら営利を目的として事業を行い、特定の営利事務に公民館の名称を利用させその他の営利事業を援助すること」を禁止しています。図書館も同様ではないでしょうか。

ふじしろ図書館の敷地は地元有志が無償で提供したものです。しかも、〇〇建設はその地元の私企業なのです。さぞかし、営利に利用されて困惑しているのではないのでしょうか。教育委員会の見識が疑われています。

「再開発と図書館」

シリーズ③

安全・快適な街 皆さんと力合わせて

加増みつ子



まちの中にベンチが欲しい!!

取手のまちは、坂が多く「疲れたときにちょっと休めるベンチがあったらいいな」「ゴミバスを待っているときや散歩途中で、腰を下ろせる場所があれば助かります」とこんな声が寄せられています。

早朝の散歩や散策など多くの方が利用するかたらの郷近くの展望台とあづまや、3基あったベンチが壊れて2基に、「壊れたままで座れない、元に戻して」と声が寄せられ、さっそく市に

要望、新しいベンチが設置されました。

しかし、台宿桜坂の歩道に「ベンチを」、井野公民館前のゴミバス・循環バス停に「ベンチが欲しい」と繰り返し要望しても、市は受け入れませんでした。高齢化が進む中で、まちなかにほっと休めるベンチは強い要望です。

ベンチのあるまちへ、みなさんの声を市に届けていきましょう。



かたらの郷につながる利根川天端の高台広場の修復されたベンチ



なだらかな傾斜の先に駅東口を臨む広めの歩道、桜の木付近にベンチを

桑原開発

優先権者

イオン撤退後の業務代行

公募不調

桑原地域区画整理事業に関し、イオンの事業協力者撤退により、将来の事業協力者候補としての業務代行優先権者の応募を開始。2者から参加表明があり資格審査の結果、1者がプレゼンテーション審査に進み優先交渉権者に内定。7月25日開催予定の区画整理準備組合総会でのプレゼンテーションを行い正式に優先権者として承認の予定であった。しかし、7月13日内定の応募者より、7月15日会社都合により内定辞退の申し出があった。市としては、「土地区画整理事業の事業化に向け、引き続き

権利者で組織する準備組合を全力で支援する」としています。

(7月17日市長より議会への報告)



広大な緑の中に稲穂も芽生える桑原開発南側予定区域＝7月20日撮影

「イオン」事業協力者撤退 岐路に立つ桑原開発 農業継続か市街化への転用か 選択可能な計画への見直しを 日本共産党桑原開発の見解と提案 (明るい取手7月12日号詳細掲載)